725
特116

特116
725

聖母マリヤの子安観音像　呼波佐々木万治郎氏蔵

或る人から贈られた古ぼけた一冊。

それは明治初年の石版の摺をこくめいに立体素にもどして一本一本丁寧でうつしたもの。陰影やなどをうつしてあり、ぼかしたところなどは點々でうつしてある。厚い紙にはりつけてそれを又一枚厚い紙にはりつけて本に製ってある。

今頃から見るとずいぶん妙なものであった。

しかし寫した人の熱心そのものは、この本の上に躍如たるものがあるではないか。心ある人々に彼れの熱の不朽なることを知へんとをしへ、且その熱心を傳へんとするあるやうにも思へる。《ふしのや》

微笑山荘より

春一題

家えの道五律

花田の父陽

薇山から眼の下の

忙ちまき

（谷尾長氏寄）

山内神斧先生の

俳句 2

☒ 旧冬、山内神斧先生から、赤毒と、(2) 大津路号を贈られて拝見することが出来ました。

☒ もはや、澤山の雑誌に紹介も行き渡り、皆さまの机辺には備はってゐる事と思ひますから、今、私のやうなものが、これを言ふことは、あまりに無用な事かも知りません。只、私は宮田さのやう皆さん我が彩の廣場の記録である以上、この記事を無ませないでは居られなかったのであります。

☒ 先生の友人、高松市の杉野九平氏はかういはれました。

「寺々は山内氏の生命である。而して今日、日本に於ける俳句の中で、あれだけのものは珍らしいと思ふてゐる。」

この言は杉野氏が、山内先生の提灯を持たれた言と許りは思はれません。

☒ 殊に、今度は、先達の範囲を拡げて、続貝以外に渡って、先生の俳句生活が紹介せられたことは、私ども下駄っ子に、嬉しい事でありました。

☒ 先生の、大津路号を、何作せられた動機と信ずるといふやうなことは、よく

「大津絵の思ひ出」にあらはれてゐて、私等ぼんくらにもよく分ります。

◪ この大津絵は、彩色摺すべて二十三、今其の数をあげますと、

塔（彩色摺）　鳩（彩色摺）　雷仁に鼓（奴）

(1) 鶏　(2) 猟と馬　座頭

(4) 提灯に鈴鐘　(5) 外法大黒の角力　鷹匠

(7) 猫と鼠　(8) 大黒の行水（彩色摺）　酒飲む奴

(10) 花売（彩色摺）　(11) 鬼の行水　帆掛船

(13) 女虚無僧　(14) 瓢箪鯰　鬼の念仏

(16) 外法の猿子制　(17) 化物　町奴

(19) 住吉踊は故水落露石氏以上十五枚に

(20) 土口をどり　(23) 四の町奴は山村耕花画伯の

(22) 住吉踊は故国本月村氏の所蔵品で、大津絵の最初の大震災で故重要

(24) 浮世絵の様子制　(25) 外法大黒の角力

(26) 住吉踊は故国本月村氏の所蔵品であると共に、一たものの残りであります。三十枚の内、この二十枚だけが

(27) 利行清たなって、先生の手許に返へってゐたもので、先生に取りては感慨無量のものであるといって居られます。（当時番頭の話から、この大津絵号の利行が先生には意義の

私なども聞けました。）それだけに、この大津絵号の利行が先生には意義の

深いものであることはよく伺はれます。

因に焼失したといふ十枚は左の如くでありましたといふ。

△鬼の追儺　△藤娘　△恵比須　△天狗と象

△鬼の三味線　△煙草と美人　△七つ道具の紋廻　△持奴　△酒飲む猿

△竹に虎　コロタイプの感じがいかにもいいと思います。

◪ この毒々に用ひられた純日本式に、しっくりと合ってゐるこの用法に何んともいへない落付きを見せて居ります。只字と絵との出来ない点がありますが、その解説に

智識の乏しい我々には充分會得の

於て詳細に各部分の色彩を示して居られますから、大体に於てその手法及び色彩を會得することが出来ます。且つ四枚には木版彩色を應用せられて珍らしい作品になりました。コロタイプの原色印刷ではこの味は出来ませんが木版の応用によって大津絵に極めてふさはしい感じと見られたと思います。

◪ 扉には例によって先生の自画刻になる蒔絵があり、巻頭に貼られたキスリプリス（少女の瞳）も亦先生の自ら作られものでこの二つの先生の自作ロロだけでも大に我々のハートに新しい血を吹き込みます。

◪ 全巻を通ってくり返しても先生自身で望まれてゐる程の理解は私には得られませんけれども、その全巻に溢れてゐる熱烈鮮味のたゞとさを礼讃する気もちだけはいくらくり返しても飽きません。（十五、四、廿七）

◎川崎巨泉先生は人魚の図を配贈せられ、且つ「おもちゃ絵」を東京奈良の帝室博物館外九ケ所へ寄贈せられました。◎齋藤昌三氏青山督太郎氏の「愛書趣味」は益々内容整美第四輯配贈◎正武屋氏の「鳥」は近く第二号を刊行◎川西健氏はシブキの図お伽づくしの琉巻を配られ◎田中亀文氏は「柏鈴」の草双紙の巻を既刊近く紅草子の巻を出さる由◎信田葛巣氏の「てんのうじ」はつ春の巻を配贈◎柳屋画廊は柳屋藏票の巻を出され◎以毛図流の二は春波老追悼号として出さる◎武田鋭二氏の「鳥城」「鳥城楮幣誌」を續刊せられ◎我巣他宗にては「趣味と平凡」第廿五号を松浦武四郎号とせられ◎ちどりや氏の「鳩笛」は完結、近く「人魚の家」を出さるいとか◎御影婢子會の「日本玩具集」は第四集まで刊行せられました。其他「寸葉趣味」「交蒐」等趣味界は賑かであります。

◆兎山大人のはがき◆　このはがきが長い冬眠をさましました。

童樂會作品

吉田永光氏の童樂會は第二回と第三回とが出ました。土俗味を美術人形に持たせて而もその味を失はせぬ氏の腕は益々冴えました。

『第二回』

(7) 天神様（會津若松）四分の一
赤い衣裳の天神様、赤い色が如何にもよく出てゐると思ひます。かうして見ると、天張りでは こんな気もちが出ない様です。

(8) 鯛持人形（佐渡八幡）三分の一
滑稽たる大鯛を抱えた子ども、鯛の朱に輝く金線が陽らかであり、衣裳の赤地に白と淡黄の絞りが全体をひきしめたもので、殊に紅色はよく出て居ります。

(9) 犬（越後加茂産）二分の一
原品は練物といふことですが、よく注意して見ると前の佐渡の土人形の気持が漂ふてゐるに反して、これはどこかに堅い練物らしい気分を見る様です。こゝに氏の努力の閃きを見ます。耳が尖り立つてゐる、犬の気もち、牡丹もやうの衣裳などが私には珍しく思はれます。

(10)(11) 鶏の雄雌（陸中花巻）四分の一

私は花巻人形の原品を知りませんが、どうともいへませぬが、この人形を拝見しますと、黄色に素朴な土人形の氣分を見ます。一に彩色のし方によって原品の氣分を出さるーであらうと思います。花巻人形の實物を知る人も氏の妙技に賞讃を惜まないと思います。

(12) 淀馬 (新前橋 福井) 五分の一

《第三回》

(13) 左義長羽子板 (京都) 六分の一

多分の様式を摂はれたと伺はれるこの左義長羽子板を加へられたことは、頗布を受くるものに取って此の上もない幸福と思います。

典雅なるこの左義長羽子板が氏の敏密なる彩筆によって、斯種のものの持つ特徴をよく現はして居られます。

表面に鉄黒ら水た金紋の模様に印した七ツ目生の紋、御殿の板敷のあの淡緑色、赤い夜光蒙の子供等は私の最も好きなものです。

裏面の左義長の図もおもしろく、山石路具の枝は、たいへんよく活躍付いてゐます。

(14) こんな小さいものもよいのですが、氏が更に實物大の複製を頒布せられまーたら、斯界を益する事如何ばかりかと存じまーした。

亀持人形 (大阪) 四分の一

この人形は氏の東北おもちや行脚で得られたものと思いますが、氏はこの人形師の洗練し切った顔貌の描き方にすっかり感心して居られた様です。(一個氏から私へも贈られましたが、途中で二つにこはれて殘念でーたが、すぐつりで珍重して居ります) そんなことでこの

人形は一層おもしろく拝見しーまーした。

(15) 鯛車 (大阪) 四分の一

軽妙な車付の張子おもちやの氣分をよくかくまでに出されたものと拝見きまーした。よくすべるく。そしてどこまでも粗朴な張子らしいいい氣分が漂ふて居ります。

(16) 踊り福助 (秋田八幡) 二分の一

頭とふところ迄の銀と、日の丸の紋が好きです。これも土人形の複製品として申分ない作品。

(17) 竹刀 (肥後熊本) 五分の一

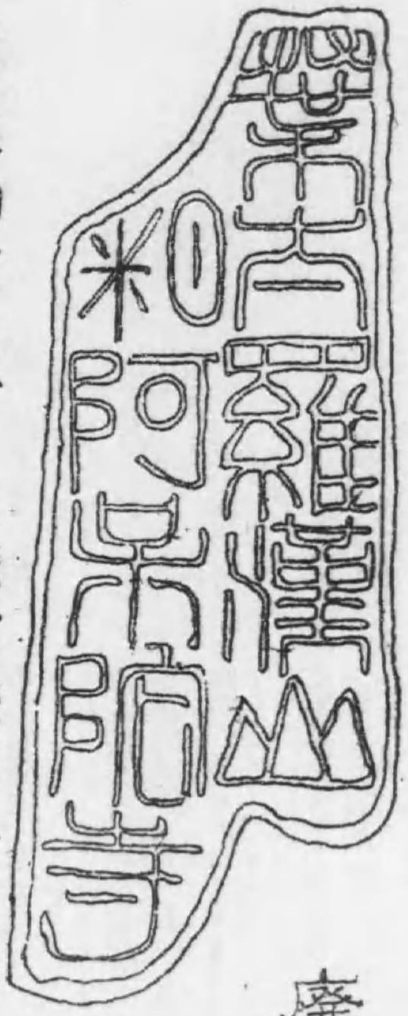
粗末なおもちやを矢張粗末な材料で複製してあって、それでよく美術人形らしい特長があります。そこに氏の立重巣人雪作品の特長を見せて居ります。

(18) 猿馬蛸の図 (東京 目黒) 五分の一、

童楽會は東京府目黒町一三四五吉田永光氏方へ御照會。一ヶ月貳圓五拾錢(送料別)

大阪柳屋画廊 つゝゐ氏方 京ちどりや氏等にも取次がるーー由。

「寿々」は右の書店にもあり、山内先生直接も可。誌代は一冊参円八拾錢送料拾八錢との事。念のため附記す。



相阿呆陀寺のもと寶印米肉にて押捺す

廃寺になつたラカン寺

頃は大正四年のころか、ふと、残骨塔の中から「和尚お礼詣士」即ち業太四羅漢山相阿呆陀寺と書いては一すまごつく、そこで重宝な似名文字に直すとハタラカン山、サアボメア寺の大和尚の雅有いお説法やら、御祈禱のかず〳〵がある神戸の新聞の反古を拾ひ出して、芝居しく しはをのして スタラップ、ブックに收めさて再読三読、分つたやうで分らぬやうで、大和尚に相見(手紙で)して見ると、大和尚さても大慈大悲、懇示するに奇想天外より落ちる仏の宇宙カンを以てせられた。日夕お詣詣、時に本魚なくぬ自手を叩くのお孤典、先日再詣嬉と遂に鼠賊のやる毒とたつたか皆目分らぬ。そこで再び向ひを立てると これは又討ちぶりき、ラカン寺廃寺 和尚ゲンゾクとのお言葉、それでも 大和尚は昔日の寶印のずゝを煤を拂ひて 牛肉を印し、更に最無の自画像とちんく〳〵の御守を賜はつた。理窟は無い。昔のサアボメア寺の大和尚、今 置佑して能澤九馬先生、更に現代まにいふな心は 東京美術学校彫刻科出身能沢九馬先生の置佑宣言を詞誦するも無用な事でもなささうである。

先生自画像を拝写して

(下方なるは先生の印)

先生は寅年三十七才の男と署してあらせる。(ふ〳〵のや)

(牛肉より)

小生三三年以前げん居住りに從つてラカンまも癒寺と相成り
居りに神佛棚も荒れるにまかせ居りに孤片に安物の水晶ずり
では、何のうへも感じなくなり神に尾ふきには、ちと小さすぎ、
やうザなものみに
やハり金光さまの方よろしく存へども成金よけ本家丈けに
……。加ふるに女難除けの上力も、未だまく効力を失はず有難
いやう情けないやう……
宇宙カンも、酒のカンに、折ち買かされ、近頃はちんくしゃく
で相暮し居りに
折角の佛壇立に……たなれども ニル位で佛カンベン乾び度ル
旧ラカンまの印ずけをします、宇宙カンと。（原文の儘）
置俗については從是いふの限りでない。只めいめいの信心のメートルこそこの鍵を
握つて居るわけはあるまいか。（大正十五、五十九）

京都清水 忠僕茶屋

△野口京松居士が霊山に参拝しての途すがら、朝早く京の清水に詣で、境内に軒餅を賣る忠僕茶屋に立寄り、彼へのみやげにとて軒餅もちを請はれたが、まだ早朝にて餅がない。そこで氏はその店で餅を盛つて貰つて、ねる小さい丼盃を分與してくれまいかと、譯を話して店の人に頼まれたら、快よく方けて貰つたとて、本盃三枚を大津で求められた大津路の路美書と共に一月の末に彼の手に持つて来て下さつた。

その忠僕茶屋のいはれがいかにもおもしろいと思つて更に詳細を知り度いと店主に照會して、下にあるやうな返翰を得た。同時に店主から餅の礼と共に贈られた忠僕茶屋の印をこゝに摸写して見る。

△しかるに 事ハ この返事を接手し爲ら二月四日に大阪朝日の「キク人」「十人」に
この忠僕茶屋のことが委しく紹介せられて更に彼は詳しく知ることが出来た。

△朝日の記事を摘記すれば

忠僕重助が薩摩で草帝吏に捕はれ 京都に連帰られ、六角の牢屋に二年間を過し、獄舎の苦しみに疲衰へて、草莫々髭で清水寺の境内をさまよふ時に
「天子様の御身めに苦勞し御はつたのがお痛はしい」と境内の茶店に奉公してゐた

「レッテル」にしるされた餅の名

清水（忠僕茶屋）

忠僕茶屋の印
（朱肉にて）

店主大槻氏の自署
（鉛筆にて）

忠僕茶屋のスタンプ
（紫色にて）

紀州生れの おいささんにいたはられた。間もなく重助さんは境内を借りて癒亭房のおいささんが赤前垂で習覚えた茶屋を開いたのが この忠僕茶屋！しかし重助さんは五十六歳の時（明治三十六年）世を去り 誠光院忠岳義道居士といふ。大隈侯と握手した寫眞を掲げてゐる いさ子刀自も八年前に夫のあとを追はれた。刀自は 有栖川宮妃殿下からあつい恩寵を受けてゐられたといふ。今は孫娘のおひろさんが 店を預って西村天囚博士の揮毫になる忠僕茶屋の看板を大切に護って居られるといふのである。

（大槻梅次郎氏よりの返翰）

月照上人 履歴

俗名ハ玉井・童名宗文或ハ久丸ト稱ス 出家シテ中將房ト字シ忍鎧ト名ノ又忍介ト稱シ後月照ト字シ忍向ト改名ス別ニ松間亭無隱庵 菩提樹園等ノ号アリ。

御兼知の如く 月照ノ師は勤王の志最も深く 近衛其の他官家に出入致し勤王の志士と宮中との中間に立ち よく國事に盡されし僧にて 遂に幕府が上人の行動を注目するところとなり 既に捕へられんとする際 京都を逃れ途中大西卿、平野次郎、有村雄齊並に重助等の人に敬言護せられ伏見より舟にて大阪に至り それより海路摂津に着す。陸路みて鹿児島に逃る。それより海五人の身の置き所なく 大西卿と共に安政五年十一月十六日西海に入られました。

重助は丹波國何鹿郡高津村に生る。(農家)遠祖安藝守高辰です。幼名音松と云ひ、律直で殺生を嫌い肉食を厭ふところから京都清水寺に奉公致し當時住職月照師の從僕となりました。その正直なるを以て國事の如何なる用事も重助に託され、赤入水の際も同船に乗合し上人の屍を同國南禁寺に葬ら自分は幕吏に捕はれ京都に護送されて六角牢に入牢申し付けられ上人並に志々の行動を詮議されしが一言も吐かず、遂に断頭にて帰宅を許されて明治初年清水寺境内に茶店を開き現在に至る。

忠僕茶屋は二里ゆ死去後
西郷從道あ江田信義我、両氏が
付け下されしく家紋でありました。(完)

(書付間は一月幸三日付になってゐる)

吉村無骨氏と西安芝デコ

△吉村無骨氏は近来土の芸術を讃美して地方色のなつかしいおもちゃの殿堂を建設して居ります。氏は自己の郷土なる因州の鳥取の玩具として、今はすたれた西安芝デコなる玩具を探し出されました。それは約二十年余も前のもので、時勢の餘波を受けた玩具で先ずしく鼠族の仲間であつたものを探し出されたとの事です。

△今時土俗玩具の振興につれてこの西安芝デコも複製復興したいと云ふ計画の向きもあるとか傳へられてゐます。少為氏の手に入つたこの西安芝デコは先づ代價を以ては分讓せず、他地方の古くから傳はる地方色の味ゆたかな玩具との交換を希望して居ります。どうか斯道に御趣味ある方々の御交換をお願ひ申しまして、一面氏の事業を援助して頂きたいと存じます。西安芝デコについては因伯玩具集に氏の研究をのせることにしてありますが、大体を申しますと張子製の首を振用した一種のからくり人形で糸と木で首を動かします。袖口にしのばせて歌の一つも伴はふといふものです。穴を焼錐であけた事などほんとうになつかしいものです。（小生）

御希望の方は……鳥取市上魚町五七 吉村無骨氏へ！

蕾咲くころ迄

ふじのや生

□私はこの一月に入つて眼の難有いといふ事と子供の有難いものといふことを深刻に体験しました。

□近視ではあるが あまり眼に不自由も知らなかつた私も、今度日明子體に故障を起し一間位先きのものは見えず、新聞の文字が朦朧として読めないと云ふ状態が三ヶ月余も續いの今日尚明瞭に恢復しないといふに至つてはしみじみと眼の難有さを味ひました。

□昨年の暮鳥取の吉村無骨氏から種々鳥取の麒麟頭及西安芝デコに関する研究を本誌のために寄せて頂きました。氏の親切による樗の繪の繪巻などは既に一部を刷上げて、もう筆彩といふ程になり、本文も原紙だけはかつて居りました。そこへ眼をいためましたので計画中の因伯玩具集の第一篇は暫く中止の次号になりました。吉村氏には申しわけのないこと、且會員各位へも甚だ相済まぬ事であります。

本号篇は因伯玩具集を出す迄古手しらべの續りでやつて居ります。

□子を持つて初る親の恩とは眞理に違ひありませんが、私は子を先立て一更に親の情の深いものといふ事を體驗しました。まだ子供を失はない先きには子供は可愛いけれども それは唯々漠然たるものであつた樣です。一朝にして子供の棺と見るに至つては

形容すべからざる深刻なる親の情の発露を見ることは 辞むべからざるものと思ひました。

□子供を失った人々の悲しみは、これまで氣の毒に思ひました。しかし 今自己に體驗するに及んで、従来我々が他人に投げてゐた 子供を失へる人への同情といふものが 余りに簡単に あまりに淡泊なるものであったかと 分りました。

□ 私は二月廿五日に長女 楚子の死を見ました。治療には 熱心なる細田醫師が全力を尽げて下さり、諸方より祈念を受け又 松本氏の晝夜不眠にて禁厭祈念をして下さり、花道出岩田両兄等をはじめ友人及村方の諸君が徹夜にて 話切奔走して下さり 我々は唯 専心看病してやったといふ有様にて 所謂 天命としか思はれませんが 十二歳を一期として夭折しました。

□二月三日に もはや絶望と宣告されしものが、手當の效を奏し、回復 三日目には細田醫院の中川さん(看護婦)もこれならと安心をして帰られた位でした。中川さんの不眠不休にて病児を看護者として下さった事は 親の身にも忘れられぬ深い印象を残しました。

看護婦といふ職が如何に尊い天職であるかを感じたのであります。

廿五日に至りても はや食物も種々許されて大喜びで、而し醫師の指示を厳重に病児自身で守りながら、一再び寵衣來した心臓麻痺のために絶命しました。

□ 彼児の死せし日は 父兄會日(児童の保護者を集めて学芸會、成績品展覧會及懇談を催す會で この分教場も本校と合同にて行ふ)の日でした。私は公職上其の會日に出ました 午後六時帰着しました。私が帰ると 病児は大きに喜びました。其時 ホンの少しイヨンものたべた位を慰安のために買って来てやったのもひどく喜び 二度も 三度も なで廻して居りましたが、三十分の後には冷い遺骸となってしまいました。学芸會には選手として談話をすることになってゐましたが、本人も前から これはあきらめてゐまして 当日 妹から学芸會の模様を聞いて大変に うれしがってゐたすことです。せめて息のあるうちに学芸成績品を皆様に見て頂くことが出来たのは 仕合なことでありました。

□子供は壮健な子で、たまにも風邪で薬を呑むにも困る程の薬きらひで、学校を一日も欠席したこともない子でした。

又親の口からは 妙なことなれども、すなほなこと、正直なこと、ものを整頓すること、そんな具合の子で、お客様でも あると 自分でお茶位は出してくれましたし、大方毎の手助けになりました。今年の四月から分教場を卒へて本校に通ふといふことが 彼の唯一のたのしみで、大正十五年四月 第五学年板楚子など子供日記などに書いて 其の日を待って居ました。

□一月元旦に須川先生の御令嬢からビロードで作った お人形を頂きましたが、これは彼の一生を通じて 最も嬉しかったものと見えて、朝も学校から帰ってからも出して見てゐました。幾度か この人形の写生を試みました。来訪者さへあれば出して見て貰って喜びました。熱の高まった晩上方に「須川先生のお嬢様から頂いた人形さんが 手をつないで 私の寝てゐる上を何べんも通り越された」といって うはごとを申しました。

彼の入棺に際して この好きな人形を抱せやりました。臘白の顔に人形を頬ずりする様に抱かせてやってゐました。永久の旅に彼もよい道づれを喜んだでありませう。

□ 私が今の處に来て九年目になりました。前の村瀬先生もここへ来て九年目にここで病を得てなくなられました。そんなことは兎に角、九年目に自分の教へ児の死を見ましたが それは自分の責任の子でもありました。

葬式の後「授業にかゝったらわるかろう」と人々から同情せられましたが、自分でもこの事は可なり不安を感じました。授業に出て見ますと、空席が目について一種の寂寞なる氣持に襲はれ授業はしました。

□だが、私はこの長女の死によりて多くの教訓を得ました。いかに修養を説いた金玉の文字も、私のやうなぼんくらには帛をへだてゝ物を見るの感がありましたが、今度の體驗は可なりに真剣であります。――餘儀なくされではあつたが――教鞭を持つ様になつてから大分の年になりました私、覺るべくして未だ覺り得ざりしものを訓へられました。彼は死して私にこのたゝかい訓へを殘して呉れました。考へ方によれば今後幾十年永らへて孝養をつくして呉れるにも優ったものがあると感謝して居ります。

□又私の趣味の生活――それは眞の趣味を解した生活ではなかったにせよ――貧弱なる自分だけの力で解したる趣味生活によって得た力――般若に力と申しておきませう――がいくらか この悲しい場合に直面して助けになったことはせめてもの自慰であります。

兎に角に私は從来とは異った生活へ第一歩を踏み出すことになりました。

□三月の末頃、小学校時代の友人竹内道説君が米國のロスアンゼルスの大学から八ケ年の留学を卒へて歸朝し、自分のお寺へ一寸帰山しました。金君は本校大慈寺の副住職で苦學をして曹洞宗大學を卒へ直ちに本山教授職で米國へ留学しました。今度駒沢大学で專攻の宗教教育の講座を担当するので小閑を偷み老僧を見るべく帰山しました。私は花子直君と金中の駅まで出迎へましたが、何ともいへない なつかしさと愉快とを感じました。歓迎會にも臨みまして倉のために一言なかるべからざるやうにもなりましたが、私の心境はさうした形式的のものではなかったので、だまって通しました。いかにも竹馬の友はなつかしいものであることと味ひました。

□三月の末頃、生田幸作君が訪ねて下さった。この人は明治三十七年私が一ぱん最初の学校に出た時に生徒の中にゐた人でした。今は立派な紳士となってゐますが、海軍士人で二度も戦功で勲章を受けた、其後海軍をやめて電気学を修めラヂオなども研究して居る人であります。子供の時に私の飯をたいてやった事があるなど、昔ばなしに興じました。實にあの時分の事を思い出して なつかしくもあり又恥しい思ひもいたしました。

其頃幼年生の方にゐた田村廣明君が特務曹長に昇進した旨通知してくれました。これも私に取ってはうれしいものの一つであったのです。

□伊藤良淳君から長女の死に對して長文の悔状を寄せられました。伊藤君は出雲の或る資産家に生れましたが父君が佛教信者であったため本村の經文寺の徒弟となりました。私の教鞭の下にも久しく居ましたし、又金寺の住持とは懇意な間柄で金君とも心易い譯であります。金君は今は名古屋の德源寺の僧堂で專念修業中であります。德源の老師は前臨済宗妙心寺派管長関盛山禪師であります。この悔み状を見て私は全く驚き且つ喜びました。佛法の教理を説き或は經典の章句を引き、或は法詠を用ひて、よく私たちの不幸を弔慰し、迷一片の光明に向はせんとした長文の悔み状には思はず落涙いたしました。有体にいへば金君の小学校の時の成績は余り優秀でもなかったし、ずゐぶん私などもやかましくいったものでしたが、今この君の手紙を見て堅固なる修業の力に一驚を喫したのであります。

この三君によって私は近来にない愉快さを味ひました。

□この人も元の私の生徒でしたが、早婚した事君が先年流感でなくなりそれがもとで茶屋酒を呑むやうになり遂に家財を蕩盡してしまいました。世間では彼にあらゆる嘲笑と冷罵を浴びせかけました。彼の散財の半面にはいろいろの黒い影法師を見ることが出来ます。保護すべき人で却って濫夫の利を貪むる人さへもあったといいます。金君の為めに惜みましたが先日私の弟の話に 彼は「社會日学校に学んだのだから」といってゐるさうです。大変に私はこの言葉を嬉しく思ひました。世間といふものが厄介なものであるといふことも感じました。

□先日 古雑誌を整理した時 見るともなしに「愛児不死」の文字が目についてその

小説をよみました。菊池寛の小説です。或る長男をなくした――不遇のうちに――母が、成功して成金になり、羊山の子どもが生れても死んだ長男への愛着を益々深めて行き、生存の人物としてその終焉の一語にまで扱ったといふ筋です。私の事があまり日々悲嘆にくれるので、私も困ってゐるのですが、この小説を見て、小説のそのものの價値は分らぬが、別な方面の悟りを得ました。子を失った時泣き場がなくて厩舎に糧秣を切りつゝ泣いたと野口宗松氏が語られました。

こんな心理情態は子を失って分ったことで人間としてこの心もちの分るといふことは不幸なこととはいへ、又一面人間としての苦悩・鉗鎚を受けることに依って人間味のゆたかな人になり得るとも思ひます。

□ 三都の趣味誌はしばらく措きまして、地方のものとして岡山に武田鋭二氏の主宰せらる、「烏城」といふのがあることは、今私の喋々を要せぬが、全誌が月刊を厳守し多數の部数のものを自分獨りの労力で謄写版印刷を継續せらる、勇気と抱負とには敬服の外ありません。いつかは母堂の侍看病の傍ら印刷せられたこともある様です。孫に氏の「烏城」は諸方から原稿を寄せて居られる事は更に氏の努力の結晶と愉快に思ひます。集り難き原稿をかく集めて居らるゝ事は氏の友情に負ふための事と忘れます。誌上に散見する趣味廣告や紹介は皆氏の友情の發露である見ます。氏は更に烏城稽幣誌を併刊し藩札に関する專門雑誌として世に問ふて居られます。複雑なる圖版を多く入れられたりしてゐます。その精力の程驚嘆歎の外はありません。

□ 有阪與太郎氏は土俗玩具の鬼集一萬余点、眞に斯方面の第一人稱の方であると聞きますが（こんなことは蛇足でありますが）序因「おしやふり」と題して東北玩具の字眞面帖を刊行せられました。從来のおもちやの繪集とは異った形式で玩具を紹介して居られます。紙質も良好で字眞も鮮明説明も親切で而も英文の解説を添ふるといふ新しく而して有益な試みをして居られる。日本玩具を外人に紹介する点に於て此上もない結構な計劃と思ひました。氏の私信に依れば この英文の原稿と校正には多大の労を拂はれたといふことです。ひとり芸術の上から見てのみならず人類学上の参考書としても世界的に權威ある刊行物たるを失ひません。

尚私一個人の慾をいへば玩具の優秀なるものを木版の外に原色版に附したいと思ひます。今秋出ます古代玩具笘冊に於て一層切望に堪えません。而して裝幀に尚より以上の注意を拂ひ更に落付きあるものにして古代篇に於て益々眞價を発揮せられんことを望みます。氏はこの四月更に江戸古代玩具三種を複制表頒布せられました。氏が玩具界の新人として全時に偉材として雄飛の第一歩をかゝ堅実に輝しく踏み出されたことは 辰年知として欣喜の至であります。

□ 京都の杉浦丘園氏がこの度洛外の修学院村に雲泉荘なる書斎を御建築になったことは既に田中緑紅氏の鳩信にも紹介せられました。先般計らずも雲泉荘珍品及びその附近の風景笠寸を収葉書にせられたものを氏より恵贈せられて拝見するの栄を得ました。我々井中の蛙はいつ親しく書斎拝見の様を得るやを思へば この葉書のみにても難有い資料であります。

□ 私は一つの花を挿す壺を持て居ります。十五年許り前に六拾錢で買いました。後方になる方で別に苦にもなりません。古いものですから或る茶の宗匠が弐円で呉れと申込んだこともありました。この壺が釉と形状と模様にいふべからざる妙味を持って居ります。どんな花を入れましてもよく調和して無理といふものが御座いません。

趣味者はこの壺の如く、如何なる人に接しても春風の中に座するが如き思ひあらしめる様でありたいと思ひます。しかしこの人格を得ることは、随分熱烈なる練磨を要しますが、手始一本にせよ よく人のなづいて来る様の風韻と欲しいものと思ひます。壺を見ての感ありとりたものであります。

（五月二日記）

玩具集に就いて

「富士のや 草我」の次篇から「因伯玩具集」にして見たいと思って居ります。どんなものになるか それは 自分でも分らない事です。

その(一)には 吉村無骨氏の「鯉」「鱗頭」及義デコに関する研究、谷尾長氏の「鯉」「持人形」森田竹郎氏の「片つう土偶」の指摘等をのせる已に浄書ま一た。表我だけは成安を切て居ります。土佐学上から見て價値あるものには なりませぬが、自分は自分だけの境地に於て出来るものを出して見る積で居ります。一方 謄写版の色刷といふ事も 私には重大なる仕事の一つであります。

本玩具集に収録する圖は 毎冊 五圖乃至拾圖とします。それは 記事の細大によって 図版を増減して行く積りで居ります。

私は 本誌を 浄書して 研究発表の用に供しようとは思ってません。その力もありません。唯 私の気の向いた楽書であります。隨って 因伯玩具集に 土佐学資料だとか 芸術観だとかの期待を求められたら それこそ泉と思って 溜水の溜りこを見られると 全じことになりませう。

合本にしては 使き度、その方には 紙を截たないで 造本いたします。合本にしてから きれいに おたちを下さい。

合本になさる方は 即時 その旨を 御通知下さい。菊版より少し大きく 造って頂くと ゆとりが 出来ます。

（ふじのや）

ザッピング

△何よりも 申しおくれ延引をお詫び申上げます。只さへ仕事の能率の上らぬ人間が別項に申しました通の仕事で 全く申訳のないようをいたしました。平に お赦しを願ひます。

△人の長所を見て而して 礼讃して行ける人は 幸福と思います。

自分の意思のまゝにはなかなかなる事は たゞ難い。そこに 人間の救ひが 薄く。

自分の心に鞭って この心もちに向は世界!

そんな様な事を 全頃 考へて居ります。

△七児のために 追吊の歌句 画の短冊を賜ったことは 一歌の身に 此の上もない うれしい事です。かはる 雪梅 たゞれかえまして みたまの 側に掛げて居ります。

頂いた この短冊は まとまったら、帖に裝幀したいと思います。お願いするといふ事も出来ませぬが、尚 染筆してやらうといふ お方がありましたら 此上もない難有い事と存じます。又御吊歌は一つも漏れなく貼帖に致めます。永く御芳情を拝銘いたします。都合を御氏名を控へますが 右追吊を賜はった方々に厚く 拝謝の意を表します。

△法隆寺焼の窯元で 今二度 再焼の今まで 窯元の陶工 秀工氏は 無慾恬淡な人物です。この法隆寺焼には 一種の特長を持って居ります。いつか 書いても見たいと思います。大阪朝日の山陰版に 祝句 申しました。大分 名を紹られましたが 本月三日の 紙には 何か 焼を見たいと思います。

△寄る学校から 帽章の考案をたのまれて 少と 行詰り、さりとて 考案のないのに困って 帽章を少々あつめました。吉村氏、千代氏、長谷川氏、大阪氏等の厚意で 一ヶ月程に 手間全り集まりました。其意、集癖も手伝いもう 光栄 集めようと思います。小学校以上大学まで、学校外のも集めます。全好の方の御後援又 御支援を 願上ます。（重宝も出来ますから）もう十年早く 始めたらと 後悔しました。

△蒔も 蒔て 結実が 遅れも 無い事になってしまひ 汗顔の至であります。（昭、五、十九）

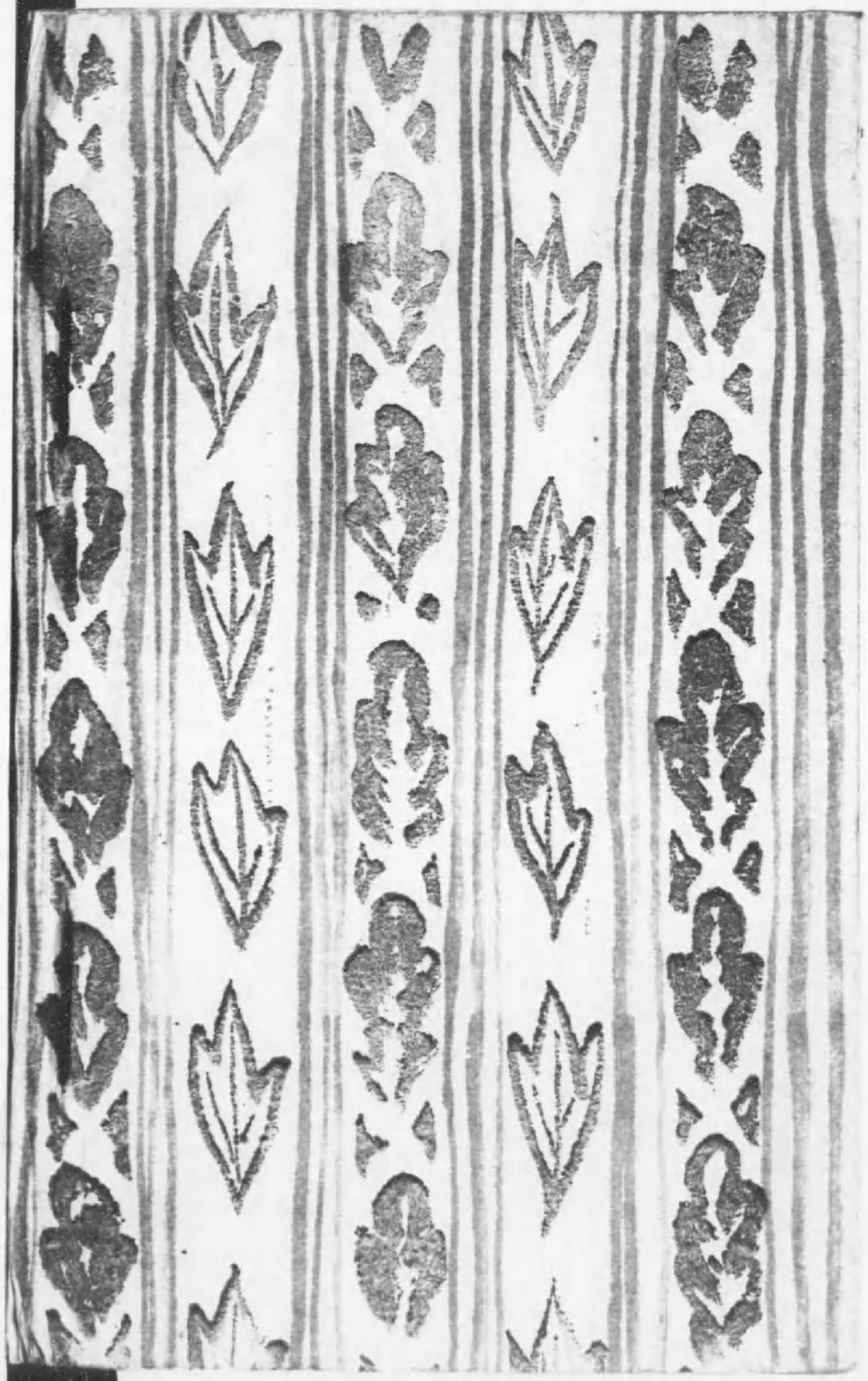
藤さく頃

富士のや草紙　第三

目次

△表紙　感興の動くまゝ
△扉　錦繻の錦少女をペンに絵ゝて
△題言　熱川は不朽（色刷）
△マリヤの観音像（色刷）
△微妙大山荘より（宮尾律雨氏宮の）
△毒ガスの(2)
△秋山大人のはがき（色刷）
△童話　今宮作品
△庵寺になったラカン寺
△京の清水、忠僕茶屋
△文化十年　象つかひの人相（色版）
△吉村無骨氏と西女表デコ
△林さく頃まで
△因伯流浪　集につりて
△すびたペン
△童表紙　今宮の気もち（陽光と土育美）

大正十五年五月三十日納本
大正十五年六月　七日発行
富士のや草紙第三（非賣品）
編輯兼発行者　板倉良
島根県西伯郡境町藤井村
大字十六道河内一四三ノ二

283
157

終